

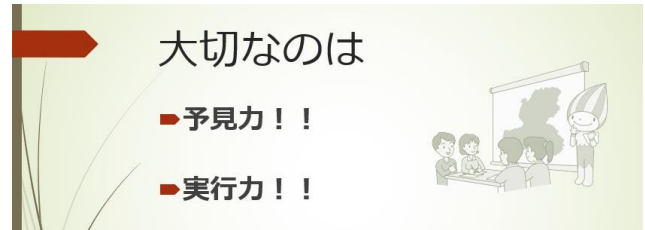
ぼうさい通信

平成 30 年 10 月 4 日 (木)
岐阜清流高等特別支援学校
保健安全部 No.1

防災は、自分の安全は自分で守ることが基本となります。ただし、個々の力には限界があり、家族や地域の人たちと協力していくことが大切です。防災・減災に関する知識や技能を高めるための一助となればと考え、このような通信を発行することにしました。

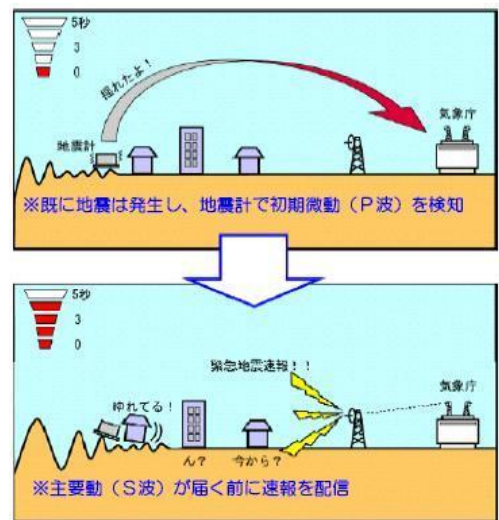
1 平常時の防災活動 (大切なのは)

人間には、「今までその災害は起きていないから安全」「ここまでは来ないだろう」「たいしたことはないだろう」と軽く考えてしまう特性(“正常性バイアス”といいます)があるそうです。関東北部豪雨に関する調査でも、避難勧告、避難指示が発令された地区を対象とした調査にもかかわらず、浸水するとは思わなかった人が76%で、「まさか○○となるとは!」と口々に話したそうです。災害は経験していないから安全とはなりません。危機感をもって、防災について考えていきましょう。



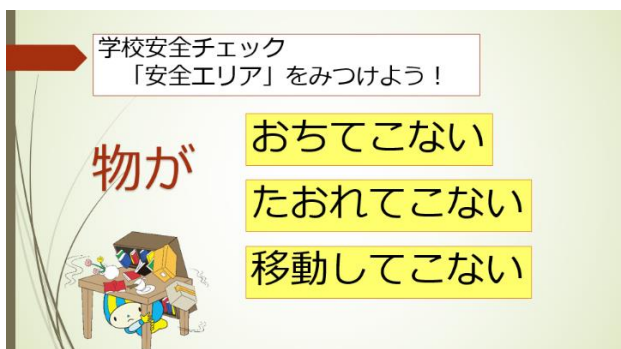
2 緊急地震速報とは

- 地震波を感知した直後に解析し、発表するもの。地震を予知するものではない。
- 速報発表から主要動が到達するまでの時間は、数秒と極めて短い。
- 震源に近いところでは速報が間に合わないこともある。



3 命を守る訓練

「お(おさない)、は(はしらない)、し(しゃべらない)、も(もどらない)」は地下街や映画館等、閉鎖空間で火災が起きた時の避難行動です。様々な災害に対して、決められた行動だけでは命を守り抜くことはできません。「今、地震がきたらどうすべきか?」周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くために、危険を予測し、回避する能力を高めましょう。良い訓練とは課題が見つかる訓練です。「何も問題がなかった」で終わるのではなく、よかった点、改善点に気づけるようにしましょう。



自宅でも安全チェックをしよう!

今年6月18日午前7時58分ごろ、大阪府北部を震源として最大震度6弱の地震が発生しました。通学途中に学校のブロック塀の下敷きになって亡くなるなどの犠牲者がでました。また、南海トラフ地震が心配されています。震度6以上の大きな揺れがあったとき、今いる場所では何が起きるでしょうか。普段から考えておくことが大切です。

安全エリアを見つけて「物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を探して、身近なもので頭部を覆い、できるだけ低い姿勢をとる」等(学校生活ハンドブック2018より)、命を守る行動ができるように備えましょう。学校だけでなく、自宅でも安全チェックをして、防災に努めましょう。